



モンゴルの雪害対策の一環で造られた家畜用の井戸 ©今村健志朗/JICA

# 開発コンサルタント

高い専門性と  
実務経験が必要

「開発コンサルタント」という職業を知っているだろうか？政府開発援助（ODA）や国際機関による援助の中で、スペシャリストという立場から、現場の最前線でプロジェクトを計画・設計・監理する人たちだ。具体的には、開発途上国政府の要請に基づいて国際協力機構（JICA）などの援助実施機関がプロジェクトを企画・立案。その目的をいかにして達成させるか、その方法論を提案するのが開発コンサルタントの仕事だ。そして、相手国政府や実施機関、対象地域の住民などと話し合いを重ねながら、プロジェクトを実施していく。

活動分野は地域開発、農業、水資源開発、運輸・交通、鉱工業、エネルギー、保健医療、教育、環境、経済、行政…と実幅が広い。近年は、地球温暖化や食料問題、貧困など開発課題の多様化に伴い、活躍の裾野がさらに広がっている。

「開発コンサルタントに求められるのは高い専門性」と話すのは、開発コンサルタントの仕事に詳しい社団法人海外コンサルティング企業協会（ECFA）の高梨寿・専務理事。活動分野の拡大とともに、開発コンサル

タントに求められる技術レベルも高度化しているのが現状だ。

また、人を相手にする仕事だからこそ、英語をはじめとする語学力やコミュニケーション能力も重要になる。特に、開発コンサルタントの多くが所属する開発コンサルティング企業は、即戦力を重視するために中途採用が多く、現場での経験も不可欠となる。大学院に進学して専門性を深めたり、留学して語学力を身に付けたり、援助実施機関や開発コンサルティング企業などでインターンやアルバイトをして経験を積むことは、開発コンサルタントへの第一歩だ。

高梨さんによると、最近はその採用を拡充する企業も増えつつあるという。「しかし、最初の10年は下積み期間。先輩のアシスタントとして、契約事務や報告書作成などプロジェクトの支援業務を行いながら、自分の技術を磨いていくことが大切ですよ」と話す。

とはいえものの、専門性と経験だけでは開発コンサルタントとしての仕事は全うできない。その前提に、「好奇心旺盛で、忍耐強く、高い志を持っていることが大切だ」と高梨さんは強調する。